

第 1 4 章 復旧工

1 4 - 1 耕地復旧工

(1) 表土掘削・埋戻	1 4 - 1
(2) 耕地復旧 (耕起)	1 4 - 2
(3) 畦畔復旧工	1 4 - 2
(4) 整地作業	1 4 - 2

第14章 復旧工

14-1 耕地復旧工

(1) 表土掘削・埋戻

バックホウによる耕地表土の掘削又は、埋戻作業が必要な場合に適用する。
適用条件は下記のとおり。

- ・表土厚は、15～30 cmに適用する。
(適用範囲内で最も支配的な表土厚で適用を判断する。)
 - ・施工幅は、表土掘削の場合 12～40m、表土埋戻の場合 12～46mに適用する。
- なお、作業土の運搬が必要な場合は、別途「第2章 土工」により算出する。

1) 数量算出項目

施工項目区分ごとに算出する。

表14-1 数量算出項目区分一覧表

項目	区分	単位	数量	備考
表土掘削		m ²		
表土埋戻		m ²		

2) 数量算出方法

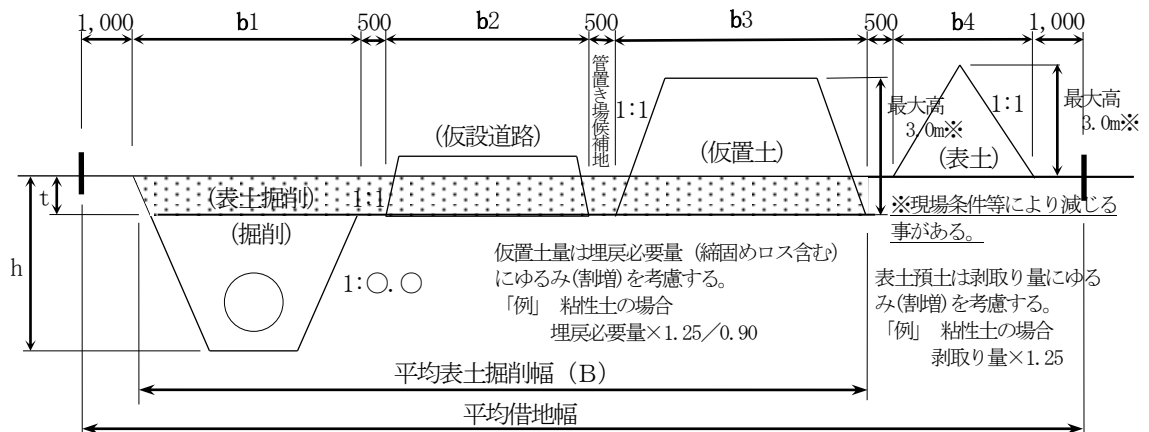
平坦地の場合は、土工タイプ毎に標準断面図により、数量を算定するものとする。

タイプ毎の数量＝平均表土掘削幅×(タイプ延長－X)

X：道路、水路等の控除延長(畦畔、耕地間の小規模な法面等は控除しない)

起伏地、施工方法(道路下施工等)、用地手当等の問題で標準断面図による算定が適さない場合は、平面図等から数量算定を行うものとする。

3) 標準断面図例



(注) 管等資材置き場を必要とする場合は、必要幅を考慮するものとする。(管は呼び径寸法を標準とする)

(2) 耕地復旧（耕起）

工事復旧時にトラクタによる埋戻後の耕起作業が必要な場合に適用する。

1) 数量算出項目

耕地復旧（耕起）の面積を区分ごとに算出する。

表14-2 数量算出項目区分一覧表

項目	区分	施工区分	単位	数量	備考
耕地復旧（耕起）		○	m ²		

(注) ふるい分けのような完全な方法による石礫、雑物の除去が必要な場合は除く。

①施工区分

施工区分は、次により区分する。

区分	施工区分
耕地復旧（耕起）	無；石礫、雑物の除去が必要無い場合
	有；石礫、雑物の除去が必要な場合

(3) 畦畔復旧工

工事復旧時における、畦畔築立が必要な場合に適用する。

なお、畦畔復旧の形状は、図14-1を標準とする。

1) 数量算出項目

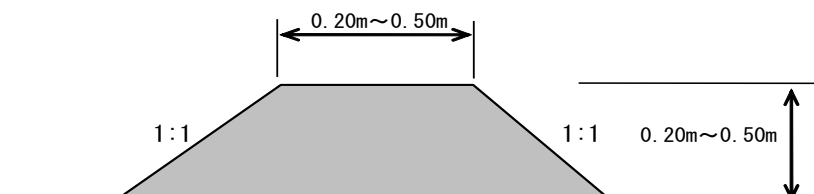
畦畔復旧工の数量は、延長（m）で算出する。

表14-3 数量算出項目区分一覧表

項目	区分	単位	数量	備考
畦畔復旧工		m		

(注) 畦畔復旧工には、畦畔法面仕上げの経費も含まれているため盛土法面整形は算出しない。

図14-1



(4) 整地作業

整地作業は、「第10章 ほ場整備工」10-1(2)に準じる。